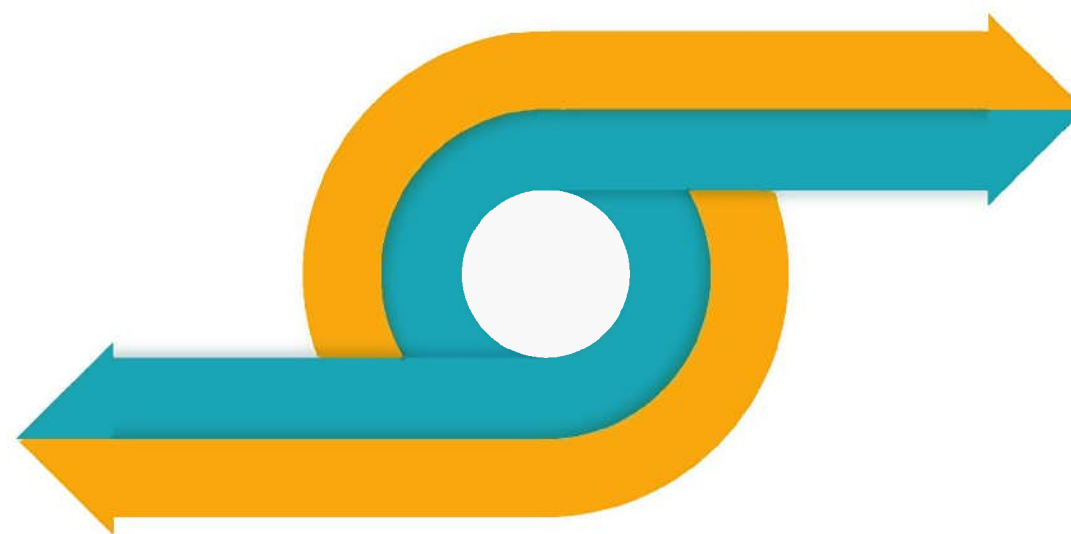


# 長久手市香流川整備計画(案) (香流川を活かしたまちづくり)



第3回 検討委員会資料  
2014. 9. 2.

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ



# 1. 第2回委員会での意見のまとめ

**◆原郎公園・落合公園・北小学校周辺**  
 ・雁又川に干潟があり、アオサギ・シラサギ、ホタル、多くの魚がいて、非常に魅力的な場所だった。部分的でもコンクリートを剥がす、**護岸や水際の工夫をするなどで生物は戻ってくる**と思う。長期計画の中で盛り込んでほしい。(羽淵委員)  
 →治水整備が終わっているため、長期的な整備課題となる。(石原委員)

**◆石田橋周辺**  
 ・ビオトープは、幹線道路から見える、目立つところがあるので、手入れできる余地があるとしたらどこまで更新できるのか知りたい。(赤堀委員)  
 →周辺施設と結びつきを強くできるように関係機関と調整したい。**市民が川に近づき、賑わいが波及**していくようにしたい。市民参加ができる取り組みを考える。(事務局)  
 ・沿川住民の方は川に生活排水を流さない、企業も汚泥処理をきちんとする、浄化センターの排水は窒素やリンを除去する高度処理に変える、石田橋下流に排水口を持っていくなど工夫をする。(國村委員)

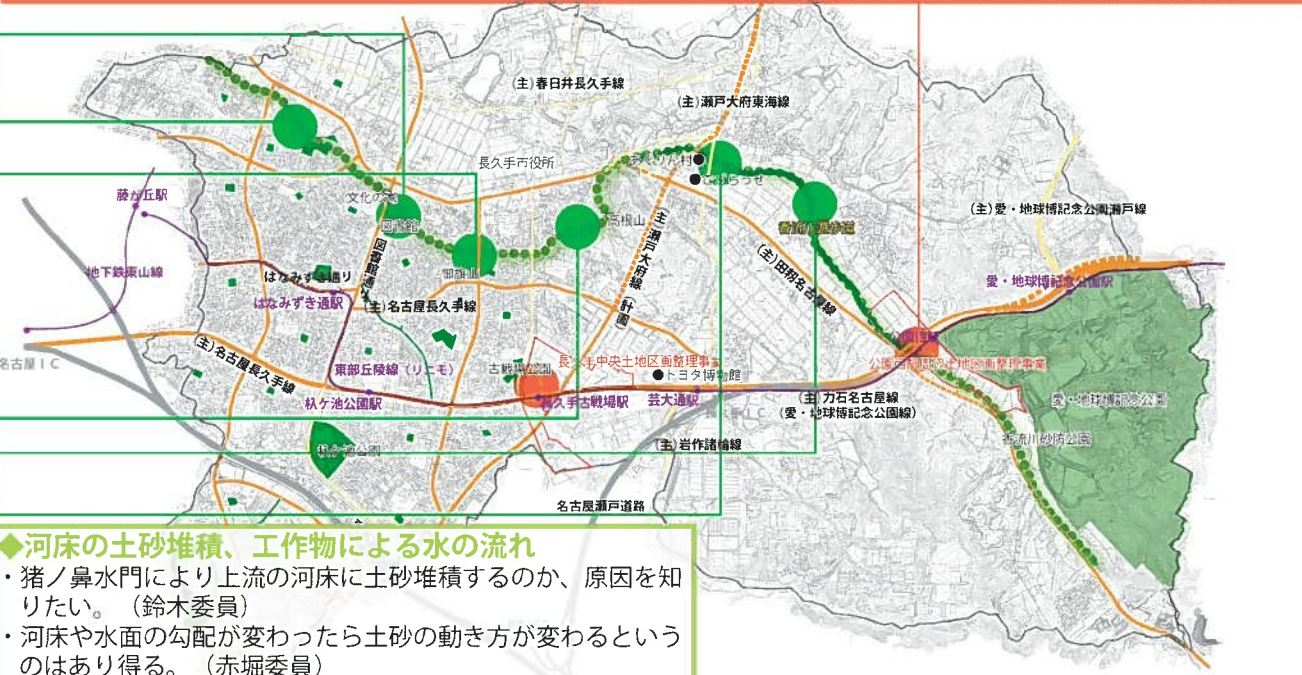
**◆新富士浦橋周辺**  
 ・蛇籠で水際が固定され、セイタカアワダチソウが繁茂しており、歩くことはできない。将来的には検討していく必要があると思う。(國村委員)

**◆岩作橋～猪ノ鼻堰堤付近**  
 ・高根橋下流は川が蛇行して、**岩作の昔の集落の原風景が残っている**。河川維持管理方法や里山などの景観の保全方法などについて、市ができることがあれば実践したい。(鈴木委員)  
 ・向田橋から高根橋区間は倒伏竹林の間伐や伐採等の作業した(現況の写真を用いること)。(國村委員)  
 ・向田橋から前熊橋までは**陸生のヒメボタルが生息している**ので、**エノキやムクノキを保全**しながら河畔林の整備をすると良い。(國村委員)

**◆香流川中上流部(あぐりん村周辺)**  
 ・河川占用許可を取るなどあぐりん村バックヤードから川へと一体となった**木陰のクールスポットのあるオープンカフェ**とすれば、景観的にも優れ、水辺に近づくことが可能となる。(國村委員)  
 ・橋梁整備と併せて**右岸を5分勾配、左岸を緩傾斜**とし、和泉川東山や関ヶ原の水辺のような**スロープを導入**するとういと思う。(國村委員)  
 →県の道路整備課や長久手市と相談して、模索したい。(石原委員)

**◆香流川中上流部**  
 ・香流川上流部で**ホタルが生息**できるよう、河床等を工夫しカワニナが流されないようにする。(石川委員)  
 ・神明川や上流域を含めて、ホタルが生息できる環境づくりを総合的に検討したら良い。(國村委員)  
 ・**神明川と香流川の合流部分**は神社や保育園があり、合流部分は北熊区の土地があるので、活用すると良いポイントになる。(鈴木委員)  
 ・中上流部の堤防に河畔林を植え、景観のアクセントにするというのは、樹木の余間ができ、外来植物の繁茂を制限する効果もある。(洲崎委員)

**◆公園西駅土地区画整理事業について**  
**【公園西駅周辺アイデアコンペ】**  
 ・階段広場は人工物の見えが大きいので、構造や素材を熟慮してほしい。本川からの揚水風車は取水権があるのでは。下流で取水して上流で排水するのは、現況地形の勾配に逆行する。(國村委員)  
 →揚水風車の水利権については確認する。(石原委員)  
**【香流川の護岸・河床イメージ】**  
 ・香流川は法面が急で、水面が下にあるので、うまくつくりないと資料の絵のようにならない。(酒井委員)  
 →提案では川を緩勾配にしたイメージを意識して描いている。緩傾斜護岸は、関連部署と相談となる。(事務局)  
**【治水】**  
 ・宅地開発や土取りされているので一気に土砂が出る。**治水に十分に配慮**してほしい。(國村委員)  
**【調整池イメージ】**  
 ・横浜市宮川遊水池のようになり得れば、**子供達も自然に親しめる、安全で五感を育む**良い場所になる。(國村委員)



**◆河床の土砂堆積、工作物による水の流れ**  
 ・猪ノ鼻水門により上流の河床に土砂堆積するのか、原因を知りたい。(鈴木委員)  
 ・河床や水面の勾配が変わったら土砂の動き方が変わるといのはあり得る。(赤堀委員)  
 ・ポイントになりそうな場所場所で、**特徴的な流れが年間通してどう変動するのかを検討**したほうが良い。多自然工法はその場所に合った検討をしないとイケない。(赤堀委員)  
 ・南島橋から向田橋は瀬と淵が形成され、河床に植物が繁茂していない。河床に捨石・置石・水制工を設置し、流速を早くするなど工夫をすることで、土砂堆積や植物繁茂などを軽減できると思う。(國村委員)

**◆外来種・盛土**  
 ・石田橋の辺りにオオキンケイギク、ブタクサ、ネズミムギの3種類の特定外来植物が繁茂し拡大をしている。アレルギーなどを抑止する上でも公園西駅周辺では**他からの土を持ってくることは注意したほうが良い**。(國村委員)  
 ・外来植物が独占するように繁茂するというのは良く見られる。新市街地で外来種が伸びる環境ができやすいので、**きめの細かい管理が必要**になる。地元の方との協働体制も不可欠だと思う。(洲崎委員)

**【緑化や景観】**  
 ・**市民のアクティビティをどのように誘発するのも重要**。余白の使い方も併せて考えていくと良い。(船橋委員)  
 ・建築、景観の基準に沿って緑化すると、画一的な風景や景色になってしまう。**市特有の風景**等を市民と市がしっかりと**共有して進める**のがよい。(船橋委員)  
 ・ワークショップを開いて市民に周知するのも重要。(船橋委員)  
**【整備スケジュール、委員会での提案の対応】**  
 ・区画整理事業なので香流川や調整池をどうするか、**早急に対応を決めないといけない**。(近藤委員)  
 ・本委員会意見が反映できないと意味がない。(近藤委員)  
 ・市民参加手法を含めてどういう流れで、どういう整備を進めていくのか検討しておく必要がある。(寺西委員)  
 →コンペ特定者の意見を取り入れて調整することになっているが、委員会の案も提言したい。(事務局)  
 →区画整理事業の中で調整・検討しており、本委員会でも意見も承知しているが、詳細なすり合わせはできていない。本委員会での方向付けを**土地区画整理事業に提案して、連携を密にしてイメージを共有**したい。(事務局)

**◆水と緑の拠点、まちなかの緑の軸**  
 ・香流川から緑化を進め、生かし、育てる。**香流川が市全体を緑化推進する基点**になってほしい。(石川委員)  
 ・立石池や枵ヶ池、南部の緑地なども緑の拠点としての位置づけが必要。(鈴木委員)  
 ・自生する種で河畔や周辺に緑を増やすということを進めると良い。(洲崎委員)  
 ・長久手市はコナラ、アカマツ林が広がっていた。緑被率が高いので、里山的な自然を蘇らせることで、ロマンチックな景観ができると思う。(洲崎委員)  
 ・コナラなどを主体としたどんぐりの木、雑木林の木を増やし、新しく住む子どもたちが家のすぐ傍で虫を取ったりできる環境があると良いと思う。(洲崎委員)  
 →市管理区間の一部を緑地指定しているが、県管理区間は未指定なので、**香流川を基軸にまちに緑がつながる第一歩として緑地指定を提言**したい。(事務局)

**◆護岸や竹林の維持管理について**  
 ・まちを緑化するには市民が緑を好きにならないと全く意味がない。長期で河川を整備するにしても、緑が多くなったら弊害もたくさんあると思うので、今から維持管理をできる所からする風潮をつくっておく必要がある。(酒井委員)  
 ・川に関心のない人たちが川に引っ張って行って楽しいと思わせることが大事だと思う。(酒井委員)  
 ・アメをどう持っていくかの**計画を早めに緻密に立てておく**ことが、全てにおいてプラスに動くと思う。(酒井委員)  
 ・盛夏を超えると雑草が一気に生育する。秋はセイタカアワダチソウなどが咲き誇る。資料絵のような状態を保つのは1ヶ月毎の草刈りが必要で難しい。(國村委員)  
 →草を全部刈ると、虫が住む所がなくなるから、虎刈りにする。刈った所が生えてきたら、反対側を刈るなどを最初に合意形成しておくとうい。(事務局)  
 ・竹の管理に地域の方たちにも参加して頂くとするれば、どれぐらいの密度でどういうタイミングで伐採をして、伐採した竹をどうするかまで仕組みを考えなければいけないと思う。(鈴木委員)  
 ・護岸を守るため竹林が植えられ、伐採して利用していたが、今は使われることがなくなったため、ジャングル化している。(洲崎委員)  
 ・林床植生は明るくし過ぎると外来草本などが入ってきてしまうという結果がでた。森林の林床にあるような、**植物豊かな状態にするには、1㎡当たり2本ぐらいいい**。(洲崎委員)  
 ・過密な竹林を1㎡当たり2本ぐらいいい密度で切ってしまうと、風害や増水で倒れてしまうことがある。タケノコが出ることを念頭に置いて、**少し切った様子を見ながら整備**したらどうか。(洲崎委員)  
 ・15m×10m程度を整備した際に、マダケが1t車6台となった。竹林整備の際に粉砕機を貸し出し、破砕材でコンポストをつくるなどの**仕組みを検討**したら良いと思う。(酒井委員)

**◆市民参画・イベントについて**  
 ・市のお祭りは「点」「線」でなく本来は「面」だと思ふ。香流川は東西を結ぶ自然軸で、川に色々な地区が関わっているのだから、**香流川に関するお祭りを企画し、継続**したい。(石川委員)  
 ・香流川に接していない南小学校区と市が洞小学校区が枵ヶ池に接する。枵ヶ池でも企画して、まち全体が盛り上がるお祭りがしたい。(石川委員)  
 ・住民参加を呼びかけるとき**「自分たちが関わってこういうのができるのだ」という意識を持ってもらうこと」「2時間以上作業の場合でご婦人を呼ぶ場合はトイレは必ず必要」「やるというときに楽しさが必要」**。(石川委員)  
 ・ホタルの飛翔など地域の大事なものを守るため、市民に参加してもらうにはどうしたら良いかを考える。(石川委員)

**◆整備優先度**  
 ・市民と協働で川づくり・まちづくりを進めることで**①公園西駅周辺**に絞って、**②香流川中上流部**も併せながら重点的に検討・整備してはどうか。(國村委員)

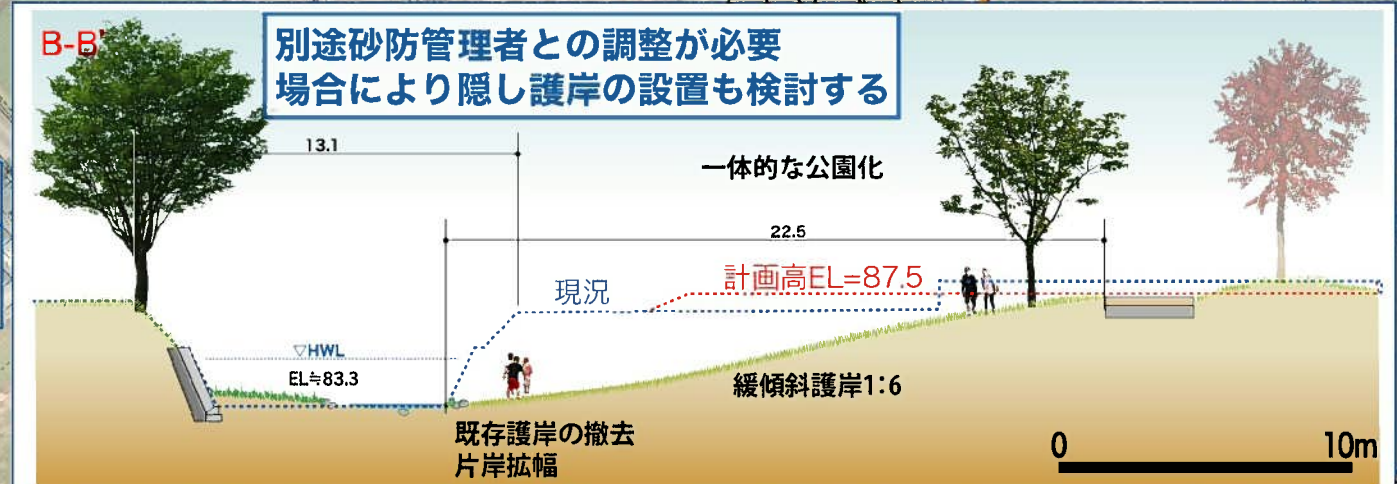
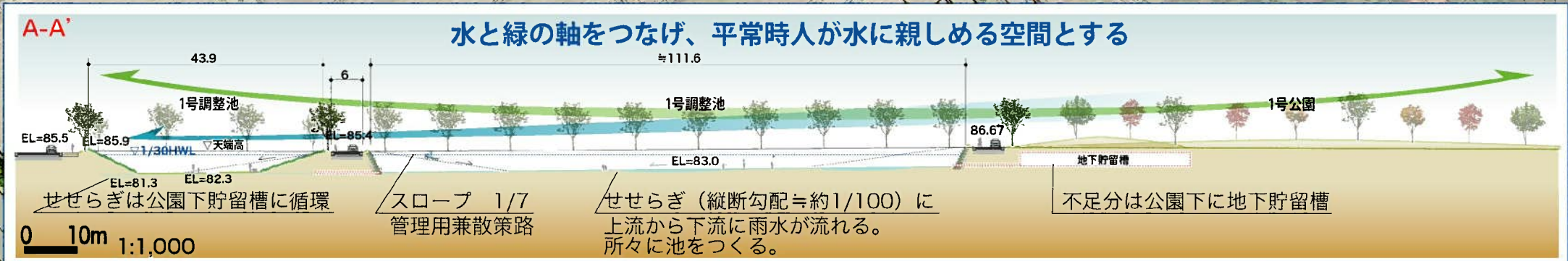


### 2. 重点整備箇所の抽出(修正)





### 3. 重点整備箇所のイメージ 1 公園西駅周辺 (詳細検討) 1:1,000



**香流川への排水**  
香流川より水位が低く池となる1号公園へ雨水循環の為ポンプアップ

エンジニア・アーキテクト協会HP  
吉村伸一氏の記事より 宮沢遊水池



サンデンフォレスト (群馬県) 防火用水蓄積池



豊田市児ノ口公園のせせらぎ (施工直後)



**1号調整池は地権者との同意等の調整が必要 循環施設は土地区画整理事業組合との調整が必要 同意等が得られない場合は調整池は地下式、地上部を緑化する**

**空石積護岸 1:0.5**  
自然石。周辺風景に溶け込ませる。  
**せせらぎ**  
雨水を循環させ親水利用できるようにする (香流川の水質基準は親水利用できない) 水辺の散策道。水と緑のコリドーを繋げる

**芝生の築山**  
掘削分のリサイクル。公園敷地境に空間を分断する法面を作らない。子供たちの遊び場となる緩やかな法面

**地下貯留槽・芝生広場**  
1号調整池芝法面による不足分は1号公園用地の地下貯留槽で確保

現況写真



**整備年次計画：H26年度**  
**整備年次計画：H28年度**

**礫列の河床リブ**  
小川の再生。川幅の5倍で半波長

**右岸拡幅：緩傾斜護岸~1:6**  
既存コンクリート護岸の撤去・一部改築 既存桜の一部伐採



「河川と小川」より空石積み護岸、ドイツ



「河川と小川」より緩傾斜護岸、ドイツ

**高木植栽**

**1号公園内の河川管理用道路は砂防管理者等との調整が必要 豪雨など災害時の人の安全等の管理手法も別途検討が必要**

歩行者動線  
車一旦停止  
高架下車通行不可





**1 公園西駅周辺 (詳細検討) 1:1,000**

整備年次計画：H27年度  
 整備年次計画：H28年度  
 整備年次計画：H30年度

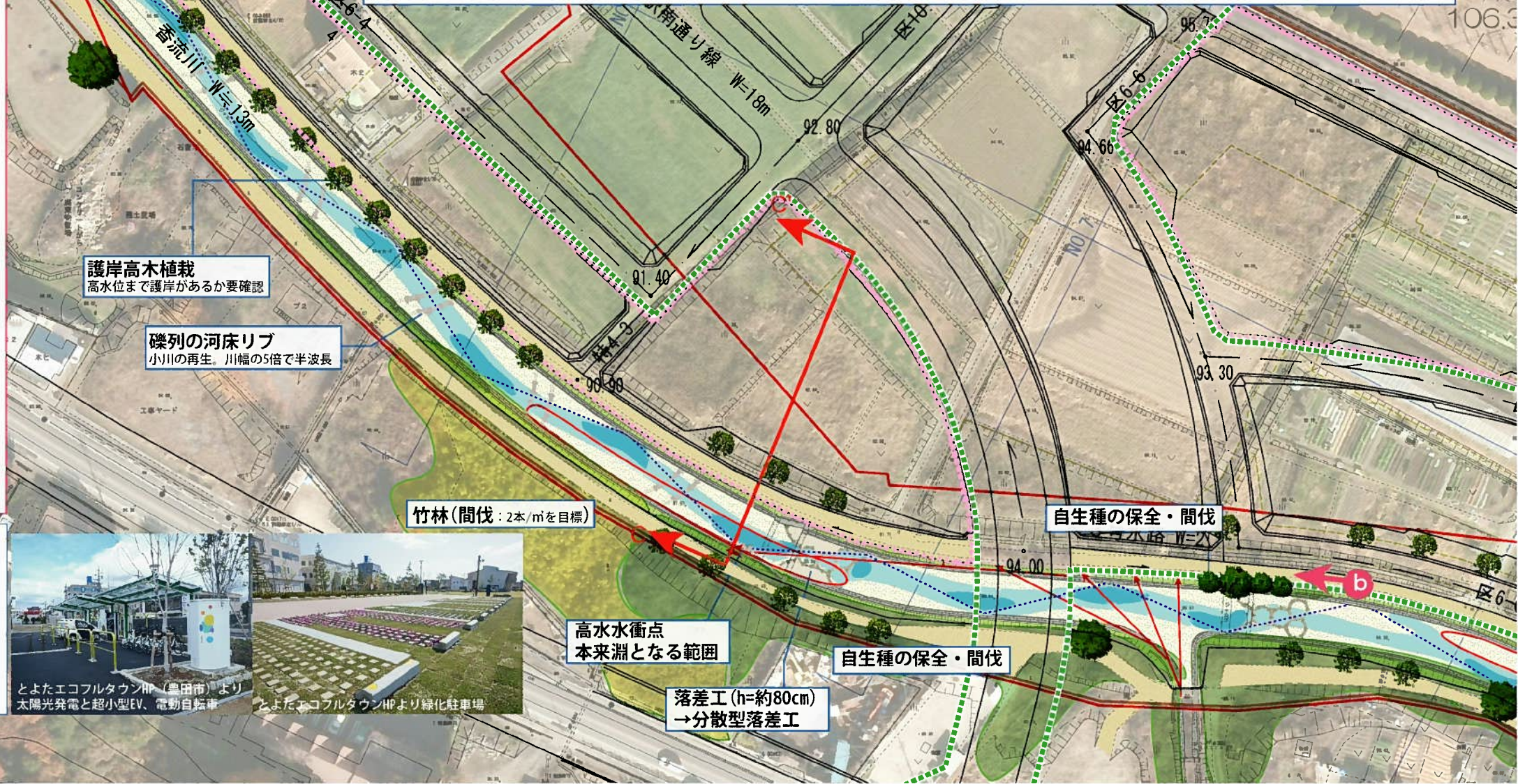
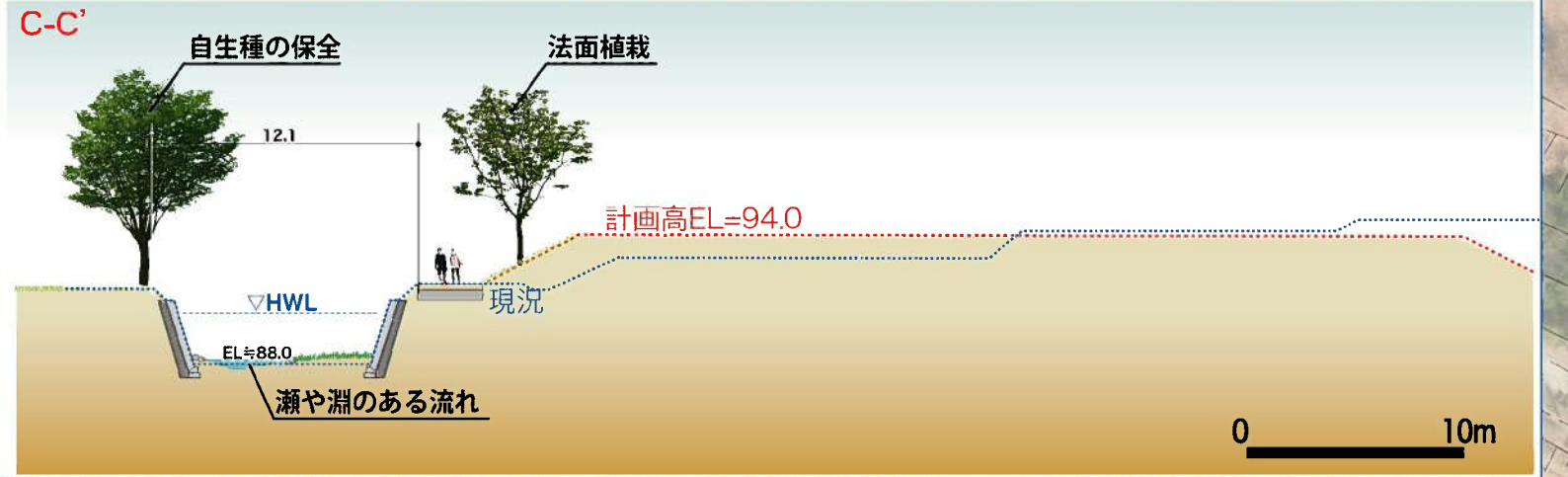
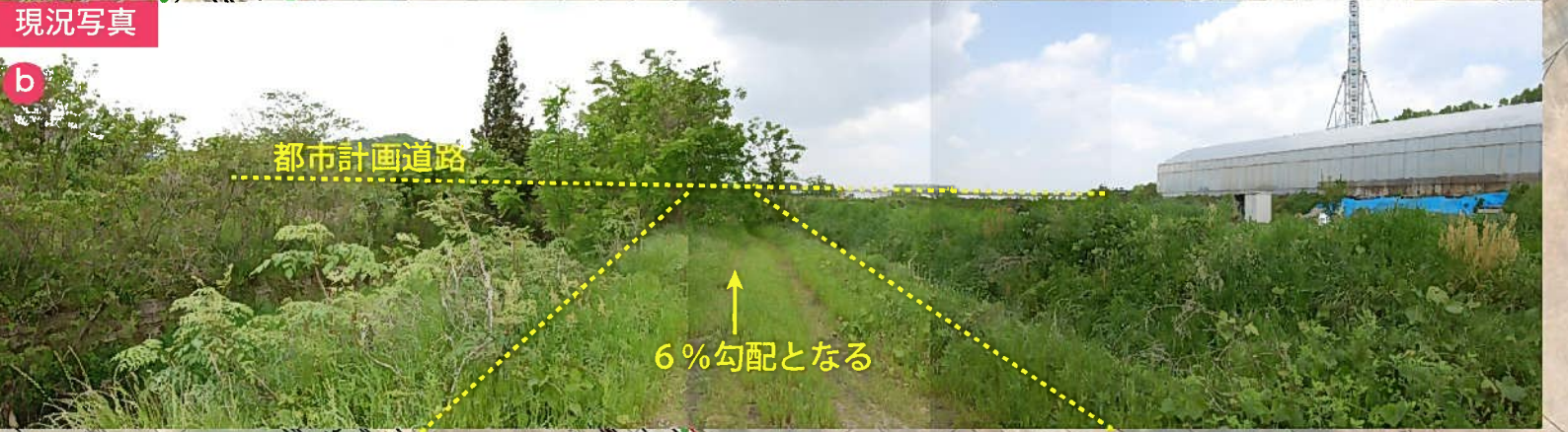
香流川整備基本構想より

整備の考え方  
**調整池・公園と一体となった空間形成**

- ①緩傾斜護岸・河川公園空間として一体化**
  - ・川幅・河床幅を広くした緩傾斜護岸として整備し、子供たちが水辺に近づきやすい、広がりある計画公園・調整池と一体化した河川公園空間を創出する。
  - ・川に近づける階段やスロープを設置する。
  - ・調整池や公園舗装はコンクリート化せず、敷地に降った雨を導き、浸透型・自然護岸によりゆっくり雨水を浸透させることにより都市型洪水を抑えるとともに、平水時の香流川の水量の維持する（調整池は平常時は公園としても利用する）。
- ②護岸法面への植栽**
  - ・高水位までコンクリート護岸が整備されている左岸は、河岸法面に高木を植栽する。
- ③礫列の河床リブ (小川の再生)**
  - ・水衝部は寄せ石を設置し、護岸の河床低下対策を図る。
  - ・自然に近い小川は、低水路幅の10倍前後の長さを一波長として蛇行することから、既存の淵を基準としながら、半波長ごとに方向転換するポイントで淵を形成するよう、小規模な礫列の河床リブを一定間隔で配置し、瀬でつながるイメージとする。

今回の提案

- ①風景に溶け込む近自然空間形成 (香流川と調整池・公園・緑道)**
  - 調整池はコンクリート護岸としない緩傾斜護岸、香流川と一体となった公園的空間
  - 渇水期は広場として利用できる空間
  - 水生生物の生息空間や連続性を確保





# 1 公園西駅周辺 (詳細検討)

1:1,000 0 10 50m

整備年次計画：H28年度  
整備年次計画：H30年度

現況写真



法面を活かした芝のすべり台  
空間を法面で分断しないよう配慮

法面緑化+植栽

高水水衝点  
本来淵となる範囲

落差工 (h=約80cm)  
→分散型落差工

礫列の河床リブ  
小川の再生。川幅の5倍で半波長

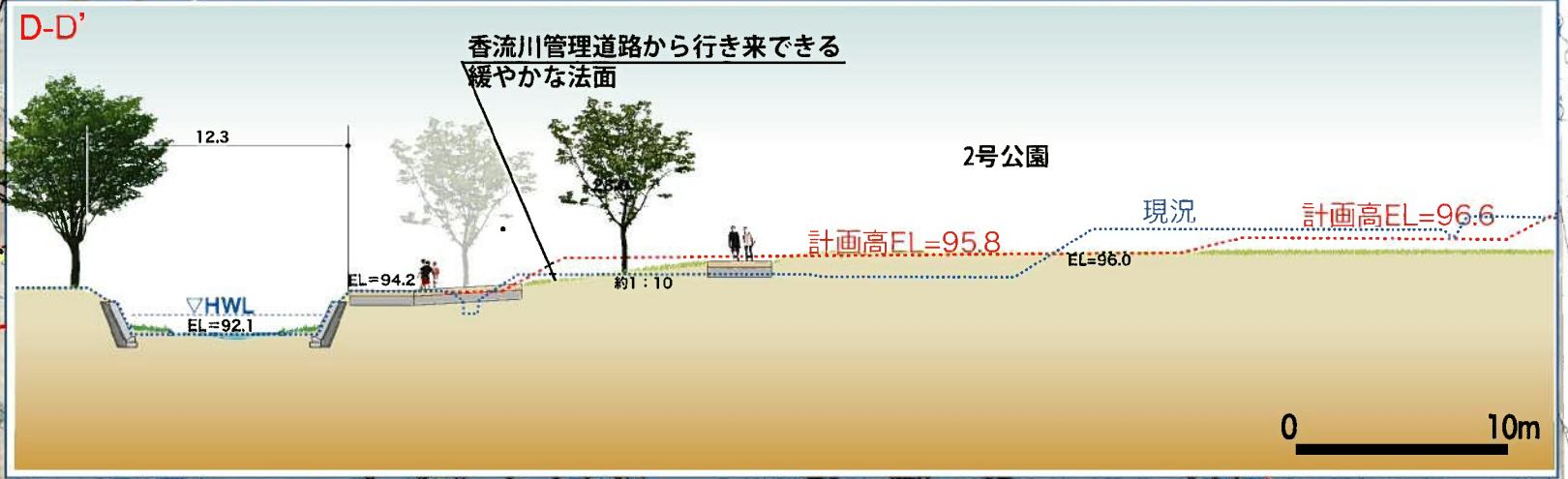
自生種の保全・間伐

法面緑化+植栽

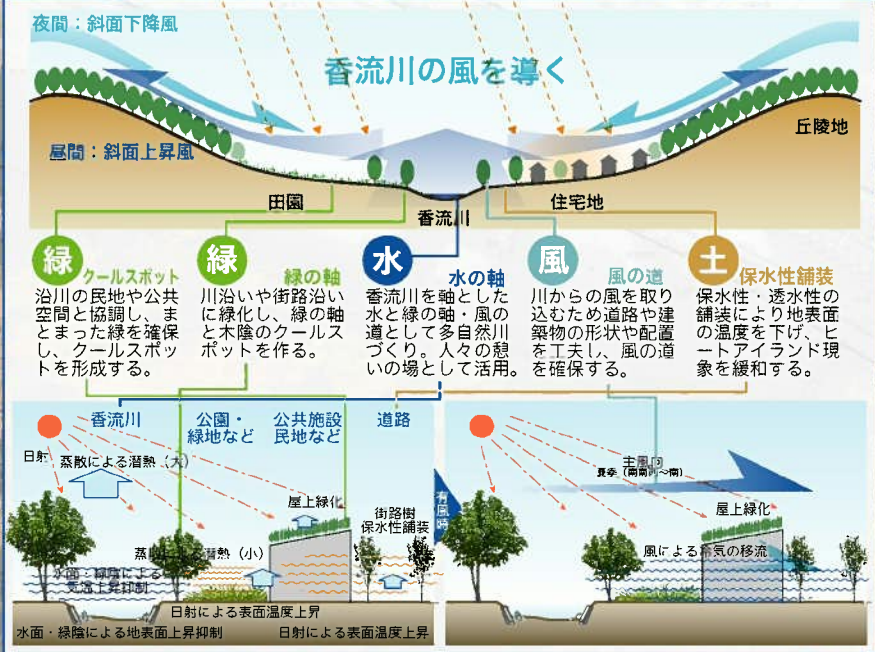
自生種の保全・間伐

水衝部・水制工

自生種の保全・間伐



整備年次計画：H32年度  
整備年次計画：H33年度







公園西駅土地区画整理事業 2号公園付近

香流川整備基本構想より



公園西駅より南 低層住宅・公園付近





公園西駅土地区画整理事業商業ゾーン・公園付近(平水時)



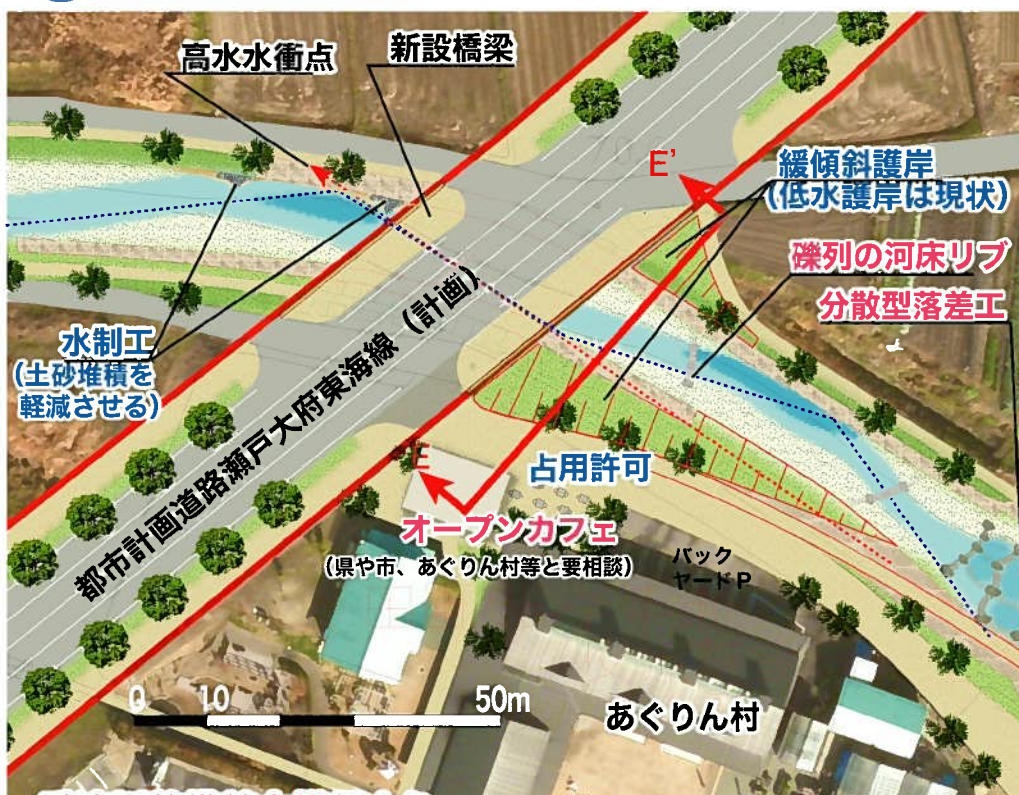
(豊水時)



**2 香流川中上流部 (修正) 1:1,000**

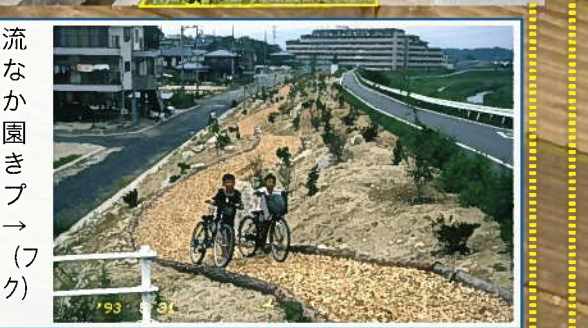
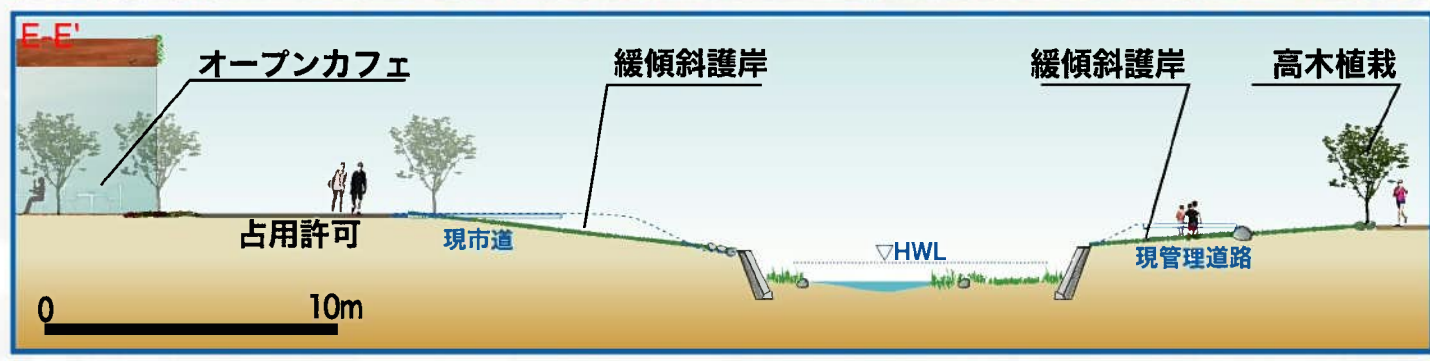
第2回委員会意見より神明川合流部まで追加 (ホタルが生息できる川づくり)、オープンカフェ周辺・川裏の植栽部分変更

現況写真



**香流川整備基本構想より 整備の考え方 川に顔を向けた交流空間形成**

- ①人の交流を図る空間整備**
  - ・現在は川を背にしていることから、川に顔を向けたオープンカフェ等を整備し川に顔を向けた交流空間を創出する。
  - ・新設橋梁への取付部を利用して法面をできるだけ緩やかにし、子供たちが水辺に近づきやすい、広がりある空間とする。
- ②連続する歩道・橋梁の整備**
  - ・溝下橋は交通量が多いことから、高水敷に連続した歩道を整備する (溝下橋周辺は一部石積み護岸とし、歩道幅員を確保)。
  - ・都市計画道路の橋梁は、長久手交流空間の新たなランドマークとなるデザイン又は周辺景観に溶け込むデザイン等で景観検討を行う。
- ③護岸法面への植栽**
  - ・高水位までコンクリート護岸が整備されている箇所は、河岸法面に高木を植栽する (高水位までコンクリート護岸が整備されていない箇所は、農道と香流川緑地間の法面に植栽部のみ盛土し高木を植栽する)。
- ④水制工と礫列の河床リブ (小川の再生)**
  - ・水衝部は寄せ石を設置し、護岸の河床低下対策を図る。
  - ・自然に近い小川は、低水路幅の10倍前後の長さを一波長として蛇行することから、既存の淵を基準としながら、半波長ごとに方向転換するポイントで淵を形成するよう、小規模な礫列の河床リブを一定間隔で配置し、瀬でつながるイメージとする。
- ⑤分散型落差工**
  - ・既存の落差工から石積みの分散型落差工とする。流速と水深を多様にし、生物の生息環境改善を図る。



- 今回の提案**
- ①川らしい風景の創出 (香流川を意識させる)**
    - ・余剰地等に盛土・高木植栽
    - ・ホタルが生息できる川づくり (神明川合流部)

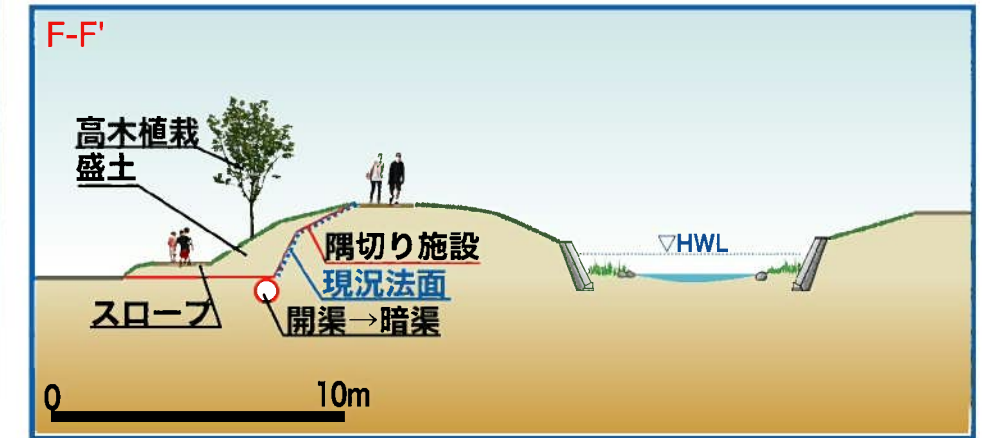
都市計画道路瀬戸大府東海線橋梁は整備年次が早まる可能性がある  
橋梁と河川管理道路との高低差・擦り付け等は橋梁詳細設計時に検討する

実際の視点は枠外 (南東側)





香流川遊歩道周辺余剰地への高木植栽



神明川との合流付近 (ホタルが生息できる川づくり)

香流川整備基本構想より

都市計画道路桁橋・トラス橋案

あぐりん村周辺

溝下橋～一乃井橋間









### 3' 岩作橋～前熊橋付近 (追加) 1:2,000



#### 香流川整備基本構想より

#### 高根橋西詰 整備の考え方 休憩スポット整備

- ① **ポケットパーク整備**
- 御嶽神社参道や首塚等周辺に旧跡が点在することから、歴史的な景観の向上を図る。
  - 高根橋は拡幅・景観整備を行い、上流側の石灯籠は橋梁付近に移設する。
  - 余剰地はポケットパークとして植栽やベンチ等を整備し、周辺道路は自然色舗装とする。
  - 明度が高いガードレールは、ダーク系のガードフェンス等とし、周辺景観との調和、川への視認を図る。

#### 高根橋下流 整備の考え方 水衝部対策+堆積土砂の改善

- ① **水制工**・水衝部は石組みの水制工を設置し、護岸の河床低下対策を図る。
- ② **砂州**
- 左岸に土砂が堆積するが自然の姿なので現状のままとする(水制工設置に合わせて必要に応じて斜めに切り下げる)。
  - 高根橋上流左岸側のワンドを保全・拡幅し、洪水時に左岸側に流れを導き、堆積土砂の河床低下を期待する。

#### 高根橋下流 整備の考え方 分散型差工+護岸景観対策

- ① **分散型落差工**・既存の落差工から石組みの分散型落差工とする。流速と水深を多様にし、生物の生息環境改善を図る。
- ② **護岸景観対策(土佐積み)**
- 落差工付近のコンクリートは人工的な印象を与えることから、前面に自然石の土佐積みを行う。
- ③ **竹林の管理**・倒伏により景観を悪化させ、河積を阻害している竹林は皆伐・間伐する。



#### 今回の提案

- 里山の風景に溶け込む空間づくり  
高根山や色金山、沿川の田園等周辺の景観に溶け込む空間を目指す
- 都市計画緑地「香流川緑地」の延伸  
前熊橋から下流、一乃井橋から上流の未指定区間「香流川緑地」の延伸
- 水生生物の移動  
岩作橋下流の落差工の改善
- 河畔林の保全  
竹林の間伐、エノキ等自生種の保全
- 遊歩道整備  
香流川遊歩道整備(岩作橋～前熊橋間を優先)

名古屋市水辺研究会・県で倒伏する竹の伐採・間伐が行われた



香流川整備基本構想より  
岩作橋下流落差工



河畔林・里山の保全（岩作橋～前熊橋間）



岩作橋上流



H26.5撮影

東島橋上流落差工



H26.6撮影

高根橋（御嶽神社参道）



向田橋上流





# 4 石田橋周辺

## 第2回委員会から変更なし ワークショップで話し合いながらできる箇所を進める

1:1,000

現況写真



人道橋

現在行き来不可

高水水衝点

分散型落差工

水制工

低水水衝点

文化の家



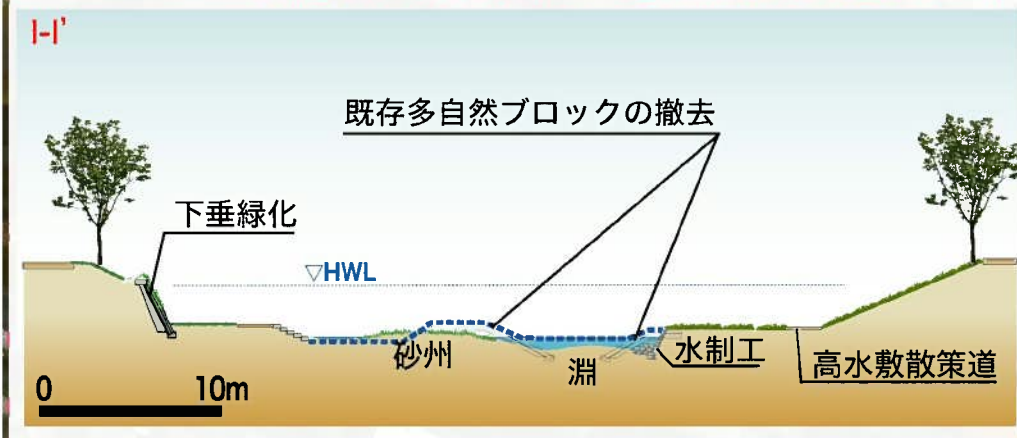
参考事例：香流川沿道や図書館通りなどの景観道路は、電線類の地中化や、剪定を必要最小限にして自然な樹形を形成する緑陰道路化を検討する。←岐阜市本郷町ケヤキ並木



参考事例：香流川から市内周辺施設へ誘導できる誘導サインや散策コースの設置、距離表示により、利用者の楽しみを増やす。←左：観光庁ランナーズインフォHPより福岡大濠公園 右：豊田市足助町誘導サイン（日本街路灯製造株）

香流川整備基本構想より

### 整備の考え方 **ビオトープ空間の再生** (淵と瀬、砂州の形成 (低水護岸の改善))



#### ①河床・河岸の安定化と自然環境の復元

- ・土砂の堆積が進み、上面を植生が覆い、治水面でも環境面でも当初目的から反する現象となっていることから、自然河川により近い淵や瀬の形成を促し、土砂の堆積もより自然砂州に近い、植生繁茂の維持管理面でも有利な川づくりを目指す。
- ・河道幅規模の蛇行を単位とする河床の近自然デザイン等3つの考え方があり、本案はそのうちのひとつ。
- ・右岸側は、高水時の水衝部となる河岸領域であるため、淵が形成されやすい区間に水深確保と河岸防護の護岸・水制等の対策工法を施す。
- ・淵の淵尻・瀬肩の位置と河床高を維持するために、分散型落差工の応用による対策工を設置する。
- ・瀬の形成は、造成した淵と淵との間において、自然に委ねる。
- ・左岸側は、高水時の水裏部となり、河道幅が急拡することから、砂州が形成されやすい。砂州と淵・瀬の相対的な位置関係から、砂州上の土砂堆積や植生繁茂の過剰発達を抑制する。

#### ②周遊動線 (歩道・歩道橋) の整備

- ・高水敷・護岸は連続した歩道整備をする。
- ・ビオトープ⇄桜ヶ根公園・中央図書館⇄文化の家⇄香流川を周遊できる歩道橋と飛び石を設置し、一体的な河川公園空間とする。

#### ③護岸法面や高水敷への植栽

- ・ビオトープでは河積が大きく、また高水位までコンクリート護岸が整備されているため、河岸法面に高木を植栽する。
- ・コンクリート護岸や高水敷のコンクリートは覆土・マット又はツタ類による下垂緑化等によりコンクリート面を目立たなくする。

#### 今回の提案

- ①文化の家等の丘陵部から川へと水と緑と人がつながる空間整備
  - ・境のない運用・一体的な交流・憩い空間として、緑や周遊動線を繋げる (周遊動線整備、サイン・ベンチ等の設置、街路樹の緑陰道路化・電線類地中化、構造物の修景など)
  - ・市民参画による川への意識向上・環境教育 (イベントの開催、除草・清掃等)







電線類地中化と緑陰道路（図書館通りの石田橋から図書館方面）

香流川整備基本構想より



香流川（石田橋から文化の家方面）



石田橋上流ビオトープ



5 原邸公園周辺

第2回委員会から変更なし ワークショップで話し合いながらできる箇所から進める

1:1,000



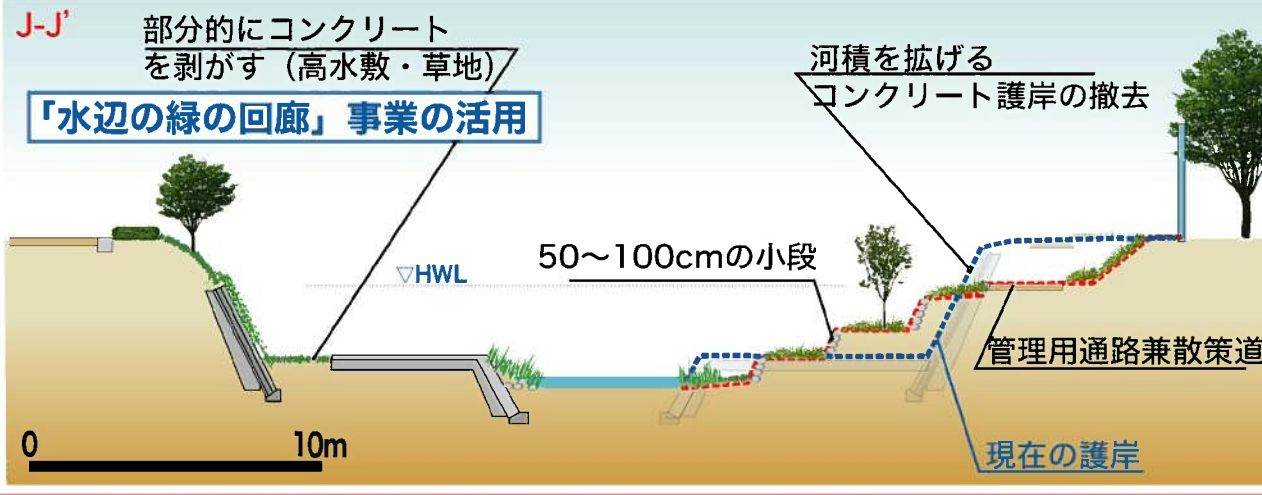
現況写真



香流川整備基本構想より

整備の考え方

落合公園等と一体となった水辺の楽校



「水辺の緑の回廊」事業の活用

①水辺へのアクセスの工夫による親水性の向上

- 北小学校南側・落合公園区域を利用して、50~100cm程度の高さの低い小段により法面をできるだけ緩やかにし、子供たちが水辺に近づきやすい、広がりある空間とする。

②寄せ土・寄せ石

- 低水護岸をコンクリートで固めているため、寄せ土や寄せ石を設置し、滞筋を蛇行させる(水流で自然に淵を成形)。

③連続する歩道・歩道橋の整備

- 高水敷は連続した歩道整備をする。
- 落合公園・原邸公園を行き来できる歩道橋と飛び石を設置し、一体的な河川公園空間とする。

④護岸法面や高水敷への植栽

- 高水位までコンクリート護岸が整備されているため、河岸法面に高木を植栽する。
- 高水敷の全面コンクリートは部分的に剥がし、草本類を自生させる。
- コンクリート護岸は覆土・マット又はツタ類による下垂緑化等によりコンクリート面を目立たなくする。

⑤落差工の一部切欠き

- 既存のコンクリートで固められた落差工を一部切欠くことで、流速と水深を多様にし、生物の生息環境改善を図る。

今回の提案

①小学校・保育園跡地等と一体となった水辺の楽校(市民参画)

- 北小・落合公園・北保育園・原邸公園の周遊動線
- 長久手北保育園河川占用部分の香流川遊歩道の延伸(高木植栽・遊歩道・ベンチ等の整備)
- 北小学校児童や保護者、市民ボランティア等との共働で環境教育活動(生き物調査・草花の植栽、清掃等)



参考事例：香流川は所々ベンチが設置してあるが、川を見ながら休憩できるスペースを増やす。←創成川公園 - 札幌市公園緑化協会HPより



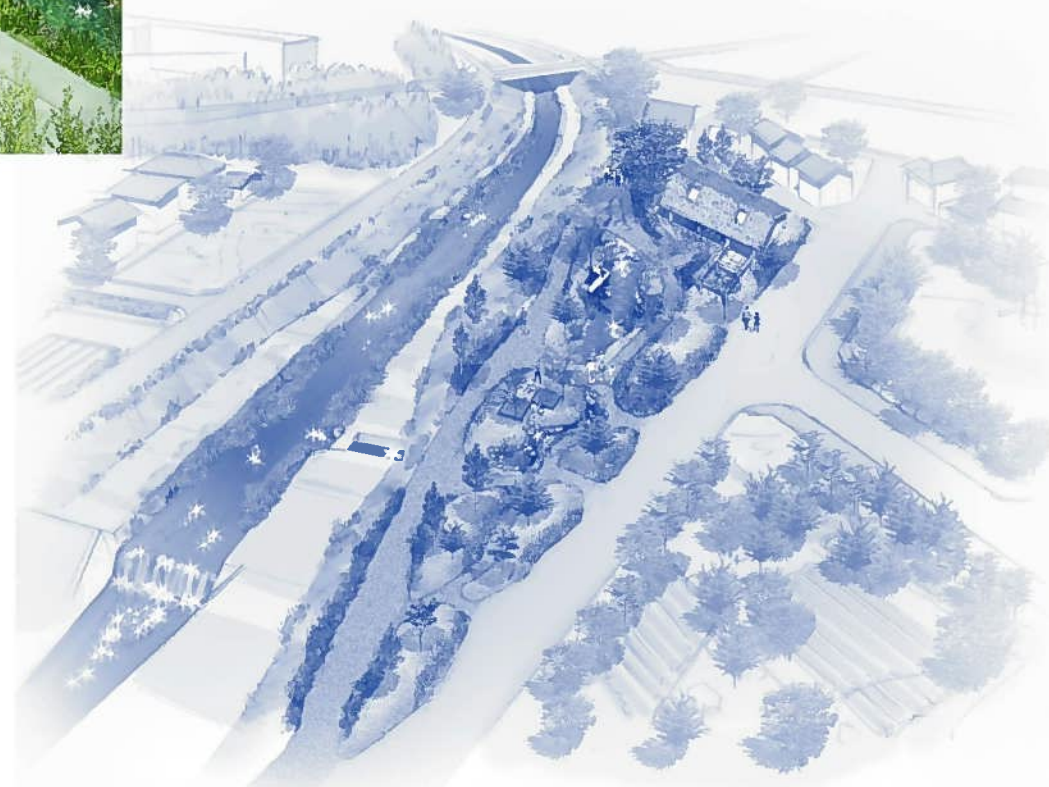
香流川整備基本構想より



北小学校・落合公園付近



北保育園跡地（香流川遊歩道と地域共生ステーションビオトープ）



水辺の楽校（市民参画）

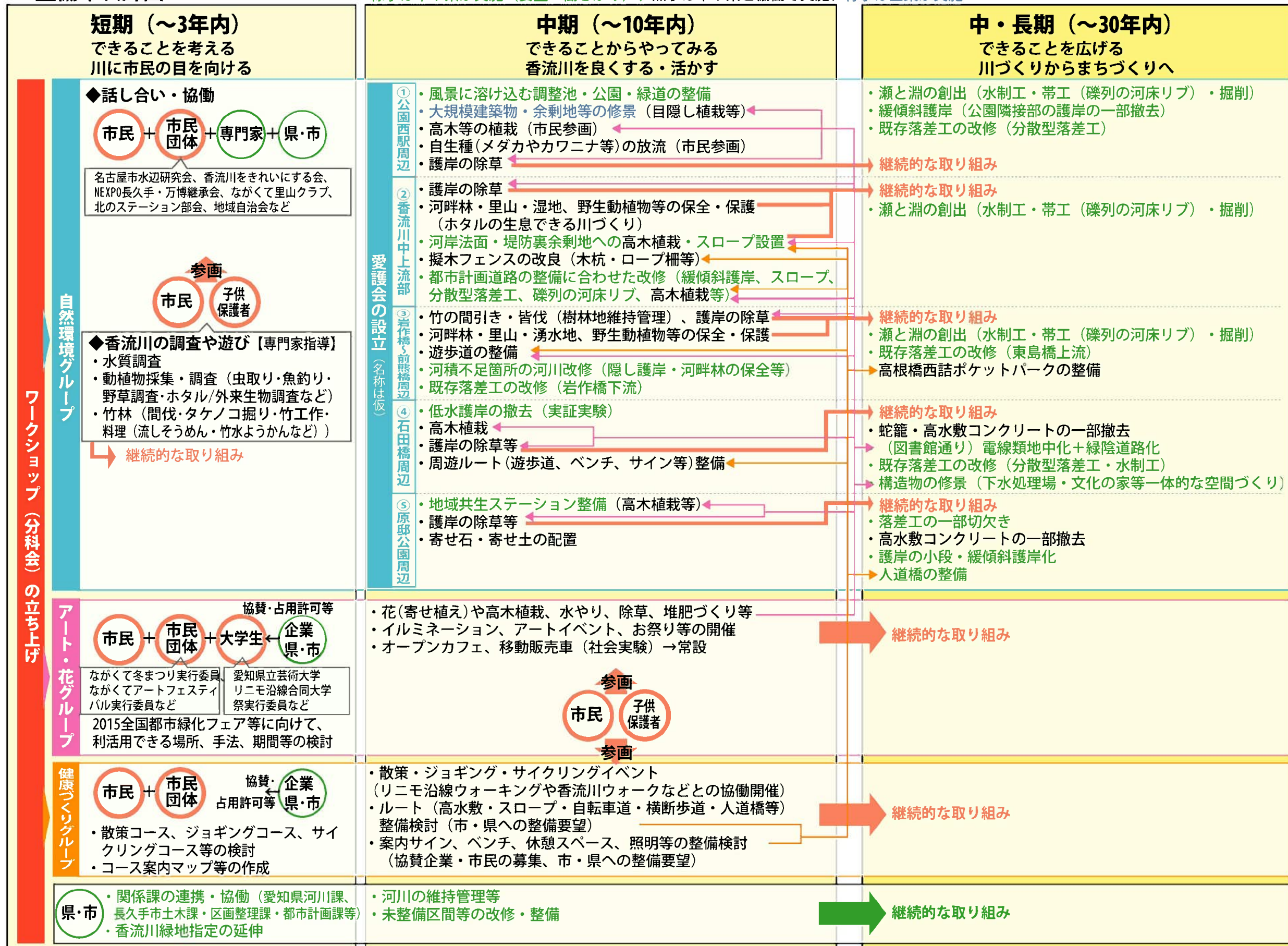


現在の北のステーション部会の取り組みの継続・支援  
（北保育園跡地に地域共生ステーションを整備予定）



### 4. 整備年次計画

緑字は市や県が実施（要望・働きかけ）、黒字は市や県と協働で実施、青字は企業が実施





## 5. 維持管理の事例

### ① 豊田市矢作川小渡地区

矢作川上流の笹戸ダム堰堤の下、1,300mにわたるセイゴ地区の竹林で半世紀放置されたために県道法面から川まで竹がびっしり生えて密林化していた。「街道から川が見えない」「元の景観ではなくなった」「背の高い竹林が日陰をつくり、冬場ずっと道が凍結する」等の地元住民の意見から、地元住民と市河川課、矢作川研究所が中部電力、漁協、地権者の協力を得ながら、ワークショップを開催した。ワークショップでは他市町村への視察を行い、竹林伐採や管理道のイメージを作成した。

折れたり枯れたりしているのが目に付く川べりの竹から伐採作業を実施し、進入路や管理道を整備した。数年後伐採が進むと街道から矢作川の清流が見えるようになった。



小渡セイゴ水辺愛護会として市に登録し、当初活動は15名程度だったが、道路を利用する地域住民にも声掛けして、現在は50名を超えている。

河畔林整備で伐採した竹を利用して、秋の月見の会で竹燈籠に使っている。学校でのイベントや造形物を作る材料など、求めがあれば提供している。

豊田市矢作川研究所月報2012.2より



ワークショップのかわら版

### ② 豊田市逢妻男川



二級河川逢妻男川は水辺の林づくりを進めており、地元中学生及び地域住民により苗木を植栽し、植樹場所に団体名を記したプラカードを設置、植栽場所の除草も2回行っている。アラカシやネズミモチなど地域潜在自然植生樹木のポット苗は、地元企業より提供された。

地域住民による若林コミュニティ会議等を結成し、市の補助を得ながら、10年以上地元小学生等と一緒に水質調査や生物調査、草刈り等を行っている。



### ③ 豊田市矢作川



草地性の昆虫等に配慮して、草を刈る場所、残す場所をあらかじめ決め、交互に草刈りをしている。(林縁の間伐と下草刈りでは、一斉に刈り払うと林縁環境を好む種に大きな影響が出る可能性があるため、状況を見ながら、2年に1回や、2カ所を交互などきめの細かい草刈りが望ましいとされる。)